平城京左京二条二坊十一坪の調査（平城第533次）

今回の発掘調査は、集合住宅建設にともなうものです。調査区は平城京左京二条二坊十一坪の西辺にあたり、法華寺の南半部にあった阿弥陀浄土院跡と二条条間路を挟んで南側に位置します。これまでの調査で平城京左京二条二坊十一坪では、坪を一括して利用していたことが判明しています。坪の中心部では「コ」の字状に配置された正殿と東西脇殿を検出しており、公的な性格をもつ施設の存在が想定されています。調査区は東西６ｍ、南北45ｍ、調査期間は７月２日から８月22日までです。

検出した主な遺構は、掘立柱建物２棟、塀８条、溝３条です。これらの遺構は少なくとも４時期に区分できます。特に奈良時代は３期以上の遺構変遷が確認でき、塀のなかには、柱間が約３ｍ（10尺）、柱穴の掘方が１辺１ｍ以上の大型のものもありました。調査区は東西６ｍと狭いため、隣接する東西塀２条が組んで東西棟建物になる可能性もあり、西辺部にまで大型の建物や塀が存在した状況も想定できます。また、検出した柱穴には、掘方に柱根や礎板が残存するものが多くありました。柱根が残る柱穴では、地山が砂質の軟弱地盤のために柱の沈下が認められました。柱穴底部に据えられた礎板は、柱の不等沈下を防止するためのものと考えられます。

今回の調査では坪の中心部以外でも、建物群が複雑に展開する状況を確認しました。狭い調査区ながら、平城京左京二条二坊十一坪における土地利用の一端を知ることができました。

（都城発掘調査部　石田 由紀子）

調査区全景（北から）